

「伊勢崎市の地域包括ケアを考える会」の取り組みについて

加藤充子¹⁾ 美原盤²⁾

1) 脳血管研究所美原記念病院 医療相談室

2) 脳血管研究所美原記念病院 院長

[はじめに]地域包括ケアシステムとは「医療や介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活を送ることができるよう医療、介護、予防、生活支援、住まいを包括的、かつ継続的に提供する」システムである。システムの構築に向けて、各医療機関・介護事業所は行政に依存することなく、地域の中でどのような機能を担うのか明確にし、在宅療養の推進を意識した運営が求められる。

[取り組み]当院は、脳・神経疾患に特化したケアミックス型病院で、脳卒中の急性期医療、リハビリから在宅療養、また、神経難病患者の在宅療養支援のためのレスパイトケア目的の入院など、地域における脳・神経疾患医療の中心的役割を担っている。当院が所在する伊勢崎市は人口約20万の地方都市であり、地域包括支援センターは行政直営、かつ市役所内に1箇所設置されているに過ぎなかった。当院はこのような現状に問題意識を持つ中小4病院の有志と共に、平成26年8月「伊勢崎市の地域包括ケアを考える会」を結成した。社会福祉協議会や行政に対しても会への参画を促し、官民が協力して地域包括ケアシステムを確立するための取り組みを開始した。当初は、活動方針に関する共通認識を形成するため趣意書の作成、活動計画の検討、さらに他の市町村の地域包括ケアに関する取り組みの情報を共有した。地域包括ケアシステムを構築するためには、医療機関・介護事業所はミクロレベルの取り組みである地域ケア個別会議において課題に取り組むだけでなく、メゾレベルの地域ケア圏域会議において課題を共有し、ミクロ・メゾの実践をマクロレベルの地域ケア推進会議に活かし、諸計画や政策に反映させていくことが必要である。当会がメゾ・マクロの活動を支援することで、官民の協力体制構築につながり、医療機関には、地域の実情を踏まえ、かつ地域のストレングスを活かした在宅療養支援を実現することが期待される。